産学連携コーディネート　優良事例

# ◆ITにより低コストに人工林材から内装材を製造する生産・加工システムの開発（2011～2013年度）

**共同研究機関**：（地独）北海道立総合研究機構　森林研究本部林産試験場（中核機関）
（地独）北海道立総合研究機構（林業試験場、工業試験場）
（独）森林総合研究所、DIC株式会社

**普及支援担当**：　北海道水産林務部

**研究概要**：　木質内装材は住宅資材として大きな市場を持ちますが、その原料は主に輸入材に頼っています。ここでは、付加価値の高い内装材として、国内のカラマツ、スギ、シラカンバなど人工林材を積極的に活用すべく、課題である節の処理技術を精査し、評価技術を開発し、これらに基づいたITによる低コストな生産、加工技術を開発します。これにより、森林資源の充実、木質内装材の自給率向上、施設への木質材料の活用推進を図ります。

節の少ない板材（中央）と多い板材（右）

開発する節処理装置のプロトタイプ（左）
内装材の意匠性にかかる評価技術の開発（中央と右）

## 課題提案者の感想：

林産試験場
斎藤直人部長

的確なキーワード「節」を見出していただき、合わせて普及の視点から研究方向を「ITを活用した装置開発」に集中させるなど、研究企画の重要な指導をいただきました。これにより、我々も確信を得て、分担と連携がスムーズに取れました。地域産業を創出するためには、地域を熟知したコーディネートによる助言、指導が不可欠で、今後の進展にも影響する有意義な機会と思っています。課題の遂行は鋭意努力しますが、進展に応じた展開方策等については、今後もご指導をお願いします。